



社団法人

海外と文化を交流する会

(社) 海外と文化を交流する会会報

2006年6月発行(3ヵ月1回発行)

第31号

”知と心”の繋がりに文化の原点を求めて

●日本を理解し日本で学ぶ留学生への支援 ●貧しい国々での医療活動を支援 ●各国大使館との協力などによる文化講演会の主催

巻頭詩

■おんがく

まど・みちお(詩人・児童文学者)

まど・みちお：明治42年山口県生まれ。台北工業卒。国際的な評価も高く、「アンデルセン賞」その他数多くの賞を受賞。著書に「ぞうさん」(ぞうさん ぞうさん お鼻が長いのね……)や、「まど・みちお詩集」「宇宙のうた」ほか多数。動物に関する詩20編は美智子皇后が英訳するなど、話題になりました。掲載の詩は、作者の快諾を得て転載しています。



かみさまだったら
みえるのかしら

みみを ふさいで
おんがくを ながめていたい

目もつぶって 花のかおりへのように
おんがくに かお よせていたい

口にふくんで まっていたい
シャーベットのように広がってくるのを

そして ほほずりしていたい
そのむねに だかれて

まど・みちお「しゃっくりうた」理論社より——カット/松岡裕子

新会長の挨拶

■ご挨拶

ジョージ・W・ギッシュ（（社）海外と文化を交流する会会長）

先ず、長年の「海外と文化を交流する会」の会長を務めた室井先生にお礼を申し上げたいです。先生のご指導の下でこの会の新しい展開が出来たことを感謝しています。その指導の特長は、人間性に溢れ、上下関係を無くして全ての会員が同じレベルで関わる事が出来る様になったことが重要な改革でした。

例えば、毎月の企画委員会では、理事も他の会員も一緒にこの会の運営に参加出来たことがこの会の特徴となってきました。この体制をこれからも継続して行きたいと思えます。そして、会の活動を支えてくれるサポーターを増やしたいと願っています。小さい会ですから、一人だけの負担にならないようにコンサートなど諸々なボランティア活動にもっと大勢の働き手が必要になります。今までそれぞれの場で手伝ってくれてきた会員に感謝しています。

今年は新しいチャレンジと機会が与えられています。それはオーストラリアと日本の交流年です。丁度 30 年前にこの会が 25 点の日本画の名画をオーストラリアに寄贈しました。この貴重な贈り物が今やつとこの豪日交流年において、その意義をお互いに理解し評価されつつ、今後の新しい形の文化交流の可能性を生み出そうとしています。

ここに現されているようなアジア・太平洋地域の文化交流が益々盛んになって、この会もその手助けができますように、すべての会員と共に、進みたいと思えます。皆様のご支援とご鞭撻がなければこの使命を果たすことが出来ません。幸いに、室井先生が会の名誉会長としてわれらの指導に残られますので、力強い励みとなります。今後ともに、よろしく願いいたします。

会長退任の挨拶

■会長を辞して今思うこと

室井鐵衛（海外と文化を交流する会名誉会長）

先ず会長を辞して思ったことは、ホッとした事です。このことは会にいられる方々への感謝の気持ちでもあります。この会に入会したのは、亡くなられた西山由高さんに誘われて、森鷗外がゴッホを日本に紹介したこの話を聞きに参加したことでした。

それ以来いつも頭から離れなかったことは、この会の“海外と文化を交流する会” — International Culture Appreciation and Interchange Society, Inc. という名称でした。Culture Appreciation とは文化を正しく認識すること。Interchange とは交換であり、交換とは互酬関係にあるということで、これは古代中国では外交そのものを意味します。そしてその外交とはお

互いに礼儀を尽くすということであり、人間社会の礼儀のあり方として、国と国との関係は礼に始まり礼に終わる事を意味します。

この会の名称からそんな事を考えました。この会の発足の主旨が文化を認識して礼を尽くす。実に素晴らしい名称だと感じました。そして松岡朝さんが、日本画の名品をオーストラリアに贈呈したことは、これも外交とは貢物をもって表すとの古代中国の王のあり方にも通じ、“王道とは”との意味も実感として感じました。しかし、難しい事だなーとも……。

小生今年で87年生きて来ましたが、いつも心にあるのは“自分とは何か”という存在感です。命は親から授かり、又親も子を宇宙から授かっています。生命を授かるということは人間の力ではないとしみじみ感じています。子供の頃クリスチャンの幼稚園に通っていた時、そこで牧師の奥様(米国人)が、クリスマスに、人形の幼いキリストが籠の中に寝ているのを指して「神様から授かったものよ。お祝いしましょう。」と言われた事がいつも頭に残っていて、神様から授かるということがどういうことなのか不思議でならなかったことを今でも思い出されます。その生命とは何か、生命の存在とは？そしてその生きる社会、国家、歴史とは？さらに終局として自然とは？とまで考えが広がっていきます。

今、計らずも一応の生活をしている自分とは何か。病気をしたり、快復したり、食べたり、聞いたり、読んだり、見たり、とにかく生きています。このことは一体どういう仕組みとして考えられるのか、そもそも生まれてきたこと、それを改めて考え、自分の生涯を考え直してみました。ここに自覚の問題が生まれ、自覚とは現実の認識であり、それは善意と努力の自覚ではないかと。その論理は自覚—現実—自然界—生命—神か。そして存在の自覚とは、生命であり、それは心かと。文化とは理想の表現であり、現実化であると言いますが、そこに人間の自覚、心が基になるのではないかと。今こんなことを考え、感じています。

“海外と文化を交流する会”の貴重な日本画の豪州への寄贈は、その心の表現だと思います。そのことが今改めて表に出ることは、会のみならず日本にとっても素晴らしいことでもあります。

この度、私がかねてよりご尊敬申し上げているギッシュ先生が、会長をお引き受け下さった事を非常に喜んでおります。かけがえのない会が益々発展しますよう心からお祈りいたしております。

平成18年度総会ひらかれる

2006年5月16日(火)、東京・銀座教会会議室で、平成18年度の(社)海外と文化を交流する会総会がひらかれました。以下はその概要です。

1) 会長は室井鐵衛氏からジョージ・W・ギッシュ氏に

1997年からずっと会長として(社)海外と文化を交流する会をリードして下さった室井鐵衛氏は、健康上の理由で辞意を表明なさっていらっしゃいましたが、次期六代目会長をジョージ・W・ギッシュ氏が引き受けてくださることになりました。

ギッシュ新会長は、(社)海外と文化を交流する会常務理事としてずっと、会のリードをし

できました。若くして宣教師としてアメリカから来日以来、いくつかの学校で教鞭をとり、青山学院大学教授を定年で辞めたあと現在は名誉教授です。江戸川区総合人生大学国際コミュニティ学科学科長なども兼任なさる、薩摩琵琶の名手です。

室井前会長は、穏やかで真の国際人として、社会貢献に、文化の追求に、幅広い指導をしてくださいました。今後は名誉会長に就任いたします。

2) 平成 17 年度収支計算書 (平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

I 収入の部

単位 (円)

科 目	予算額	決算額	予算との対比	備考
1. 会費収入	660,000	466,000	▲194,000	
正会員会費	610,000	465,000	▲145,000	10,000 46名
賛助会員会費	50,000	1,000	▲ 49,000	5,000 1名 1,000 1名
2. 事業収入	1,640,000	925,240	▲714,760	
つどい	40,000	0	▲40,000	
留学生奨励金	0	0	0	
宮崎亮医師支援	0	0	0	
会報発行	0	0	0	
国際交流事業	0	0	0	
講演会・音楽会	1,600,000	925,240	▲674,760	コンサート収益
東京ハルモニア室内 オーケストラ支援	0	0	0	
日本テレマン協会支援	0	0	0	
その他	0	0	0	
3. 寄付金収入	50,000	0	▲50,000	
4. 受託金収入	0	0	0	
5. 資産収入	1,000	22	▲978	
当期収入合計 (A)	2,351,000	1,391,262	▲959,738	
前年度繰越収支差額	3,394,021	3,394,021	0	
収入合計 (B)	5,745,021	4,785,283	▲959,738	

II 支出の部

単位 (円)

科 目	予算額	決算額	予算との対比	備考
-----	-----	-----	--------	----

1	事業費	2,376,000	970,173	▲ 1,405,827	
	つどい	200,000	0	▲ 200,000	
	留学生奨励金	400,000	0	▲ 400,000	
	宮崎医師支援	100,000	100,000	0	
	会報発行	146,000	27,048	▲ 118,952	
	国際交流事業	50,000	319,790	269,790	
	講演会・音楽会	1,430,000	523,335	▲ 906,665	
	東京ハルモニア	0	0	0	
	オーケストラ支援			0	
	日本テレマン	0	0	0	
	その他	50,000	0	▲ 50,000	
2	事務費	1,110,000	831,850	▲ 278,150	
	法人都民税	70,000	70,000	0	
	役員報酬	0	0	0	
	人件費	300,000	340,000	40,000	
	会議費	150,000	53,614	▲ 96,386	
	旅費・交通費	50,000	0	▲ 50,000	
	通信費	150,000	102,350	▲ 47,650	
	事務所費	390,000	265,886	▲ 124,114	
	家賃	0	0	0	
	水道光熱費	0	0	0	
	図書・印刷	50,000	620	▲ 49,380	
	消耗品費	60,000	52,144	▲ 7,856	
	交際費	140,000	76,208	▲ 63,792	
	HP開設費	100,000	87,724	▲ 12,276	
	雑費	40,000	49,190	9,190	
3	予備費	100,000	20,000	▲ 80,000	
	当期支出合計 (C)	3,586,000	1,822,023	▲ 1,763,977	
	当期収支差額(A)-(C)	▲ 1,235,000	▲ 430,761	804,239	
	次期繰越収支差額 (B)-(C)	2,159,021	2,963,260	804,239 0	
	支出合計	5,745,021	4,785,283	▲ 959,738	

3) 平成18年度事業計画書 (平成18年4月1日～平成19年3月31日)

1. “つどい” (定款4条2項による)

(a) “つどい”Ⅰ【21世紀を語ろうよ】

(b) “つどい”Ⅱ【留学生との交流】

“つどい”は当会の主たる事業の一つであるが、本年は日豪交流年の事業に集中する必要があるため、現在のところ未定である。

2. 留学生への支援奨励金（定款4条6項による）

昨年に引続き教育者になることをめざす、将来性のある留学生に奨励金を支給する。特に本年は日豪交流年にちなんで、将来を見据えた事業としたい。

3. 宮崎亮医師支援（定款4条6項による）

引続き宮崎医師の活動を支援する。当会では「文化」を芸術、教育、健康がバランスよく組み合わせられたものと理解している。従って宮崎医師を支援することが厚生省関連の事業であるとはみなしていない。

4. 会報の発行（定款4条6項による）

年4回会報の発行を行う。

5. 国際交流事業（定款4条2項による）

1977年にオーストラリアに寄贈した日本画巨匠による25点の作品の再活用の道として、2006年に行われる日豪交流年の行事に参加することが決定した。秋にメルボルンの内閣府議事堂内にあるクウィーンズホール、芸術大学他で展覧会を行い、同時に日本画の啓蒙のためのレクチュア、デモンストレーションを行う予定で文化人の派遣等、当会の総力をあげて計画中である。

6. 水谷川優子チャリティ・コンサートの開催（定款4条6項による）

4月28日に「感動のチェロとパイプオルガンの夕べ」と題し、水谷川優子氏(チェロ)と関本恵美子氏(パイプオルガン)によるチャリティ・コンサートを行う。このコンサートは2006年日豪交流年を記念し、オーストラリアとの親交を深めたいとの願いを持って行い、会の活動を報告しPRすると共に日豪交流年参加資金の一助としたい。

7. 東京ハルモニア室内オーケストラ支援（定款4条6項による）

演奏ばかりでなく、種々の文化活動でも高く評価されていることを認め、支援する。

8. 日本テレマン協会支援（定款4条6項による）

演奏ばかりでなく、種々の文化活動でも高く評価されているため、東京における演奏活動に協力する。

以上

4) 収支予算書（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

I 収入の部

（単位：円）

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
1 会員収入	500,000	660,000	▲ 160,00	
正会員会費	450,000	610,000	▲ 160,00	10,000×39+5,000×6
賛助会員会費	50,000	50,000	0	50,000×1

2 事業収入	1,400,000	1,640,000	▲ 240,000	
つどい	0	40,000	▲ 40,000	
	0		0	
国際交流事業	0	0	0	
留学生奨励金	0	0	0	
宮崎亮医師支援	0	0	0	
会報発行	0	0	0	
後援会・音楽会	1,400,000	1,600,000	▲ 200,000	3500円×400枚
	0		0	
東京ハルモニア室内				
オーケストラ支援	0	0	0	
日本テレマン協会支援	0	0	0	
その他	0	0	0	
3 寄付金収入	50,000	50,000	0	
4 受託金収入	0	0	0	
5 資産収入	100	1,000	▲ 900	銀行利息
当期収入合計 (A)	1,950,100	2,351,000	▲ 400,900	
前年度繰越収支差額	2,963,260	3,510,000	▲ 546,740	
収入合計 (B)	4,913,360	5,861,000	▲ 947,640	

II 支出の部

科目	予算額	前年度予算 額	増減	備考
1 事業収入	1,996,000	2,016,000	20,000	
つどい	0	120,000	▲ 120,000	
国際交流事業	600,000	500,000	100,000	
留学生奨励金	800,000	400,000	400,000	
宮崎亮医師支援	100,000	100,000	0	
会報発行	146,000	146,000	0	
後援会・音楽会	300,000	700,000	▲ 400,000	出演者 200,000 会場費他 100,000
東京ハルモニア室				
オーケストラ支援	0	0		
日本テレマン協会支援		0	0	
その他	50,000	50,000	0	

2 事務費	850,000	1,110,000	▲ 260,000	
法人都民税	70,000	70,000	0	
役員報酬	0	0	0	
人件費	210,000	300,000	▲ 90,000	書記 50,000 会報 50,000 H.P 50,000 経理 30,000 その他 30,000
会議費	100,000	150,000	▲ 50,000	
旅費・交通費	0	50,000	▲ 50,000	
通信費	100,000	150,000	▲ 50,000	
事務所費	370,000	390,000	▲ 20,000	
家賃	0	0	0	
水道光熱費	20,000	0	20,000	
図書・印刷	10,000	50,000	▲ 40,000	
消耗品費	60,000	60,000	0	
交際費	140,000	140,000	0	慶弔・中元・歳暮
H.P.維持費	100,000	100,000	0	
雑費	40,000	40,000	0	会計監査費
3 予備費	500,000	100,000	400,000	国際交流事業出費不確定のため
当期支出合計 (C)	3,346,000	3,226,000	120,000	
当期収支差額 (A)	-1,395,900	-875,000	▲ 520,900	
次期繰越収支差額 (B)	1,567,360	2,635,000	▲ 1,067,640	
支出合計	4,913,360	5,861,000	▲ 947,640	

5) メルボルン記念展決定

1977年に(社)海外と文化を交流する会が寄贈した現代日本画巨匠25点のメルボルン記念展を、2006年日豪交流年において、アーツ・ヴィクトリア(ヴィクトリア州芸術局)が、メルボルン「ロイヤル・メルボルン・インスティテュート・オブ・テクノロジー(RMIT)」ギャラリーと議事堂のクイーンズ・ホールで開催します。会期は2006年11月27日から12月9日の13日間です。それら日本画を寄贈した(社)海外と文化を交流する会には、主催者から招聘状がきました。

(社)海外と文化を交流する会では、日本画家で多摩美大教授の北條正庸さん、海外と文化を交流する会会長の青学大学名誉教授で薩摩琵琶研究家のジョージ・W・ギッシュさん、会長代行常務理事で電通大教授の大谷俊介さんを派遣し、日本画と日本文化について、

啓蒙のための講演会やデモンストレーションをおこないます。

感動のチェロとパイプオルガンの夕べ

人気急上昇のチェリスト水谷川（みやがわ）優子さんと、パイプオルガニスト関本恵美子さんのたのしいコンサートが2006年4月28日に、東京・赤坂・霊南坂教会でおこなわれました。

このコンサートは、2006日豪交流年記念チャリティ・コンサートとして開催したものです。オーストラリアとの親交を深めたいという願いを込めて(社)海外と文化を交流する会が寄贈した日本画巨匠25人のメルボルン展を成功させるためのコンサートです。

水谷川さんは近衛秀麿さんの孫。音楽の感性はすばらしく、深みのある弦楽は心を癒してくれました。

演奏曲目は、カッチーニ：アヴェ・マリア

フォーレ：ピエ・イエズ

アルビノーニ：アダージョ

カザルス：鳥の歌

C. フランク：コラール第2番 ほかでした。

チャリティ・コンサート

木村恵子（会友）

4月26日、霊南坂教会の礼拝堂で、日豪交流記念チャリティ・コンサートが開催されました。演奏はチェロの水谷川優子さんとオルガンの関本恵美子さん。

300名を越す方がおいでになり、立見席もあるほどの盛況ではじまったコンサートは、お二人の息の合った演奏に、皆さんうっとりとして聞惚れていらっしゃいました。

黒人霊歌にはじまり、フィンランドやカタロニアの民族の調べも、十字架の下で、パイプオルガンと共に演奏されると、まるで聖歌のような調べに聞えてきました。

おふたりのチャーミングなトークにも耳を傾け、よく知られている小曲が多かったせいか、とてもリラックスしたコンサートになった気がいたします。ミニバザーにも協力でき、楽しい夕べのひとつときを過ごすことができ感謝でした。

チェロとパイプオルガンの融合

和田龍太（会友）

演奏会は素晴らしいものでした。お誘いに心から御礼申し上げます。

チェロの水谷川さんは、あれだけのテクニックをお持ちなのに、少しもそれをひけらかさずに弾いている様子に感心しました。オルガンとチェロがあれ程良く合うとは、新鮮な驚きでした。教会音楽は奏者によりますが、音がデカ過ぎて騒々しく感じるがありますが、関本さ

んのオルガンは、チェロと完全にマッチして聞こえました。

トークははっきり申しますと、お二人が何をおっしゃっているのか良く聞き取れませんでした。しかし、雰囲気から察するに、チェロの水谷川さんとオルガンの関本さんの出会いはつい最近のことなのに、すっかり意気投合しているようなことを、華やいだ声で楽しく喋って居られたように思います。

今回は2Fで聞きましたが、音響は1Fで聞くよりもハーモニーが優れていたように思いました。申し分ない雰囲気でも聴かせていただきました。

ついでにもう一言加えさせていただければ、チェロで最初に弾かれた黒人霊歌「Amazing Grace」— あんなに心に響いた霊歌の演奏を聴いたのは初めてです。多謝。

立ち見客

下村とし子（会員）

本当に盛大なお客様で驚きました。今回も大勢の友人が買ってくれましたが、その人達に良い席を譲り、自分は柱の蔭や、立ち見客となってしまったほどです。

チェロとパイプオルガンのコラボレーションだけに雅びで厳かでしたが、凡人のわが連れあいは、1・2曲はピリッとウキウキする選曲が欲しかったてな事を申ししていました。

バザール出品のパウンドケーキを50個友人に頼み作ってもらいましたが、またたく間に売り切れ、「それを楽しみに来たのに……」と関西から来た友人などに文句を言われてしまいました。これまでも、当会バザールの売り手を経験済みの友人曰く「今日のお客様はとてもお行儀がよく、静かに並んで待っててくれた」と。私も何回か出店の友人を手伝ってみて気付いたことは、「自分が思わず買い求めたくなる物」を出すことです。皆様目が肥えていますから。色彩感覚もとても大事です。次回は、コンサート後家に帰って食べられるお惣菜を出品してみようかと考えています。

会場整備のお手伝いも遠慮なさらずに声を掛けてみてください。連れあいも手伝うと言っています。あの人は多分上手にやってくれますよ。

「感動のチェロとパイプオルガンの夕べ」に伺って

渡辺玲子（会友 日本キリスト教団大船教会会員）

4月28日に日本キリスト教団霊南坂教会において開かれたコンサートは、美しいチェロとパイプオルガンの響きに心洗われた一夜でした。アンサンブルではしっかりとひとつになって聴かせてくれましたし、ソロではそれぞれの個性が豊かに表現され、感嘆致しました。品格のあるトークも分かりやすく素敵でした。

一見宗教とは関係のないように思うような音楽も、お二人の内面とテクニックが、崇高な曲にアレンジしているように感じました。このような演奏会を開いて下さった「海外と文化を交流する会」の皆様にご感謝申し上げますと共に、今後の同会の更なる発展を心よりお祈り申し上げます。

ありがとうございました。

水谷川さんのチェロコンサートに寄せて

青盛道子 (会友)

壺南坂教会での水谷川さんのチェロコンサートはとても素敵でした。お人柄からかもしでる優しい品のある音色にうっとり致しました。教会という限られた空間で身近に聴く事が出来まして幸せでした。ヨーロッパでは、地域、地域にある大小様々な教会での演奏は、年中あります。日本でも、もっともっと手作りの素敵なコンサートが行われる事を願っています。ミラノ在住の娘(ソプラノ青盛のぼる)、時々イタリアの郊外の小さな教会で歌ったり、又はドイツの古城のホールで歌ったりしております。大ホールでの演奏では味わえない素敵なことが一杯あります。お一人お一人の温かい拍手で何時も励まされているようです。世界中で活躍していらっしゃる水谷川さん、次回のコンサートが今から楽しみです。

奏者の人選

岡田岳郎(会員)

全曲が癒し系すぎたのでは、とのご意見もあるようですが、私はプログラムには、問題がなかったと思います。後半に、オルガンのソロもありましたし、メリハリはあったと思います。教会という環境もありこの環境をむしろ最大限利用すべきだと思いました。ギター、ハーモニカ、アコーディオン、ハーブ、オーボエ…… 会場に合いそうです。

当日の内容は、私は、すべて癒し系でプログラムを組んでもいいと思ったくらいです。むしろ奏者によってコンサート内容は変わるものです。勿論、プログラム内容も重要ですが……奏者の実力と魅力でかなりの範囲で変わります。

当日の水谷川さんを初めて聴かせていただいた上での率直な感想は、お若く、恵まれた魅力の備わった方ですので、更に人をひきつける音、魅力といったものを今後の水谷川さんに期待したいです。

今後の会主催の課題といえば、奏者の人選が最大のポイントということでしょうか。

今回のプログラムは、バランスの取れていた内容だったと思います。

首藤信成元常務理事をしのんで

松岡裕子(海外と文化を交流する会専務理事)

日本画巨匠 25 人展がメルボルンで開催の運びとなった今年、首藤氏の訃報を知って感慨もひとしおです。思えば今から 30 数年前、会は 5 年以上の歳月をかけて、豪州国民へ現代日本画壇の代表作品を寄贈する橋渡しの一大事業でおおわらわでした。当時 80 歳を超えて、困難な資金作りに飛び回っていた松岡朝に、惜しめないアドバイスをくださったのが首藤理事でした。

リオティント・ジャパン(鉄鉱石、ウラニウム等開発の英国系の会社)の社長、のちには

会長というお立場から豪州の事情にも明るい方でした。当時私は直接会とはかかわりはありませんでしたが、引き続いてのニュージーランドにも日本画を贈るというプロジェクトの中心にあった87歳の松岡朝が、資金作りの途中、病に倒れてからは、責任を果たす役目が私に回ってきてしまいました。朝の看護、葬儀を終えた後、NZでの贈呈式までに4ヶ月の猶予しかありません。会の趣旨は元より、プロジェクトの進行状況すら何も知らない私を叱咤激励して、幾多の難関を突破して完了させることが出来たのは、故首藤信成、大谷敏治両理事の助けがあったことでした。

首藤氏は、松平家の子孫としてNY市で誕生。コロンビア大学付属幼稚園を経て、初等科から学習院に学び、海軍特攻隊に志願し、のちに無事生還されたそうです。ある時「生きる指針は？」との私の問いに、「就寝前に必ずその日一日の自分を省みて、天地にやましいことがなかったことを確認してから眠りに就く慣わし」と伺いました。一見その近寄り難く、厳格な風貌の氏に伴って大使館や額装店へ同行する度、私はかなり緊張して堅くなってしまいがちでした。しかし、その凛とした厳しさの蔭に、実はこの上ない温かさを秘めておられる真の国際派紳士でいらっしゃいました。

日本とオーストラリア、そしてニュージーランドというオセアニアの国々との友好の懸け橋作りに尽力された首藤氏のためにも、メルボルン展の成功を心から願わずにはられません。

会からの報告 & お知らせ & お願い

■寄付をいただきました

角谷泰さんから多くのご寄付をいただきました。有効に遣わせていただきます。

■会費納入のお願い

2006年度の年会費納入さらに2004年度2005年度の年会費未納の方は、ぜひともご納入ください。高く評価されている当会の活動は、皆さまのご支援あってこそなのです。

とりわけことしは「メルボルン日本画展」という大きな事業を控えています。日本文化啓蒙のいい機会です。前述したように講演とデモンストレーションをおこないます。さらに将来、日豪両国の芸術専攻生の教育交流にも発展させたいと考えています。ぜひご支援ください。

郵便振替 00130-2-366249 社団法人海外と文化を交流する会

銀行振込 東京三菱UFJ銀行渋谷支店(普) 2266599 海外と文化を交流する会

会費 10,000円(正会員) 5,000円(特別賛助会員) 3,000円(学生会員)

海外と文化を交流する会事務局

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-27-6 パインビル内

TEL&FAX 03-3370-7654 e-mail:jimukyoku@kaigai-bunka.org

<http://www.kaigaibunka.org>